

A-45 幼鼠の無塩バター、大豆油に対する選択行動と飼料組成の影響
日本女大家政 武藤静子 ○林真理子

目的 大豆油(以下S)と無塩バター(以下B)に対する幼鼠の選択行動およびその健康と発育に対する影響を観察するため、2つの動物実験を行った。

<実験I> 方法: 離乳直後のWistar系雄鼠を用い、C、BおよびFの3群(1群10匹)を用意し、それぞれS5%食、B5%食および油脂無添加食を与え、尚F群には、SとBを別々の容器に入れて自由に選択させた。飼料の蛋白質(以下P)含量は、何れも18%である。12週間飼育し、4、8、12週目に、血清choをWatson法により、測定した。結果: カロリー摂取量は、各群、各週とも、ほぼ同じで、F群のSとB合計カロリー比は、1~8週はC群の油脂カロリー比とほぼ同じで約12%、9~12週約17%となった。F群におけるSおよびBを個別に検討すると、1)週毎の増減はあっても、SとBほぼ同量に摂取したものと、2)終始B摂取が著しく多く、Sが著しく少ないものとが、5:3の割合でみられた。血清choは各週値とも群間による有意差はなかった。

<実験II> 方法: 1群6匹として5群を設け、C0群は、基本食(18%P, 5%S)のみ、C1群は基本食、HP群は高蛋白食(27%P, 5%S)、LP群は低蛋白食(10%P, 5%S)、HF群は高脂肪食(18%P, 10%S)とし、これら4群には、この他に、SとBを自由選択させた。飼育6週目に、血清choをWatson法、肝choをHerrmann法で測定した。結果: 飼料中P含量の多い群に、油脂摂取が多く、特に4週以後の増加が著しく、またSよりB摂取が多い傾向が強かった。血清choは、飼料中P含量が多いほど高く、肝choは、飼料組成のちがひによる群間の有意差はなく、血清choとの相関は、みられなかった。